

急性期脳卒中リハビリテーション up-to-date

Up-to-date issues of acute stroke rehabilitation

「脳卒中治療ガイドライン 2015」では、急性期リハビリテーションとして早期離床・リハビリテーションの介入の重要性が謳われ、早期からの高密度リハビリテーションの効果を実証した論文が高いエビデンスレベルで取り上げられ、早期介入がグレード A として推奨されてきた。ところが、その後、豪州を中心とした国際研究 (AVERT) による大規模 RCT の結果が発表され、急性期高密度リハビリテーションが通常の密度のリハビリテーションより劣ることが示され、急性期リハビリテーションの方向に影を落としている。

本特集では、この点に焦点を当てるとともに、急性期リハビリテーションの基幹となる脳卒中ユニットについての最近の文献を含めて有効性を確認するとともに、急性期に問題となる脳循環リスク、病態別のリハビリテーション介入リスク、合併症とその管理などを取り上げた。

脳卒中ユニットの意義 橋本洋一郎氏 95

rt-PA 静注療法の可能な一次脳卒中センターとともに、血管内治療や高度外科治療が 24 時間可能な包括的脳卒中センターの整備が進んでいる。その治療室としての脳卒中ユニットならびに脳卒中ケアユニットの機能や役割について、先発の米国のセンターと対比してわが国の実情と課題が述べられている。

急性期・高密度型脳卒中リハビリテーションの有効性 —最近公表された AVERT 研究結果の概要およびその評価 藤井浩優氏ら 103

脳卒中急性期の具体的定義やリハビリテーションの適切な介入方法は必ずしも明確でない。最近公表された AVERT 第 3 相研究の結論部分だけをもって、超急性期リハビリテーションの実施を否定することはできない。本研究の結果の概要およびその評価について詳細な考察が加えられている。

脳循環と離床リスク 横田千晶氏 109

脳梗塞急性期の脳循環代謝病態および急性期脳卒中例での離床リスクに関して、近年の研究結果を踏まえて解説されている。現在、急性期脳梗塞例の脳循環に関連した離床リスクに関するエビデンスは十分ではなく、臨床場面では種々の画像検査を組み合わせ、病変領域での脳循環予備能を評価することが必要である。

病態別リスク管理 酒向正春氏 115

急性期脳卒中リハビリテーションを安全に実施するためには、すべての病態に対して原疾患管理（再発予防）、全身管理、廃用症候群予防が重要である。最近の研究結果ならびに著者の豊富な臨床経験を踏まえて、具体的なリハビリテーションの進め方についても言及している。

合併症とその管理 前野 豊氏 123

急性期に生じる頻度の高い合併症は、リハビリテーションの阻害因子ともなる。本稿では、特に、嚥下障害と関係する誤嚥性肺炎や呼吸器感染症、肺塞栓の原因ともなる深部静脈血栓症などを取り上げ、その予防や管理のポイントについて解説が加えられている。

ニュース	障害者虐待 2,439 件—2015 年度調査，死亡は 3 人（厚生労働省）.....	101	
	医療的ケア児，全国で推計 1.7 万人—厚生労働省研究班調査	108	
	白杖のお客さま，危ない！ わかりやすく声かけサポート—首都圏の鉄道事業者	113	
	公務員の障害に配慮—人事院の職員が国と和解（東京地裁）.....	122	
	「ノーマライゼーション 障害者の福祉」12 月号・特集目次	126	
	上映会しませんか 介護テーマの「つむぐもの」.....	147	
	字幕 NHK で 81%—手話放送まだ 0.1%（2014 年度調査）.....	155	
	「選手のサポート不十分」—“金”ゼロのリオ大会を総括（日本パラリンピック委員会）..	165	
	書評	理学療法 臨床実習サポートブック—レポート作成に役立つ素材データ付 （評者：前野竜太郎）.....	168
		お知らせ	第 114 回 東北整形災害外科学会
第 8 回 呼吸療法セミナー	170		
第 6 回 臨床に活かす動作分析を考える研究会—変形性膝関節症のすべて	177		